2019年11月1日　アクセス　（1976年11月10日第三種郵便物認可）　第514号

地方小出版 情報誌 アクセス

毎月1回　1日発行
購読料　定価150円
（本体136円）
年間1,500円（税込み）
振替　00120-0-19017

発行所　㈱地方・小出版流通センター
編集　アクセス編集委員会
〒162-0836　東京都新宿区南町20
TEL.03-3260-0355　FAX.03-3235-6182

羊毛のある暮らしを発信するスピナッツ出版

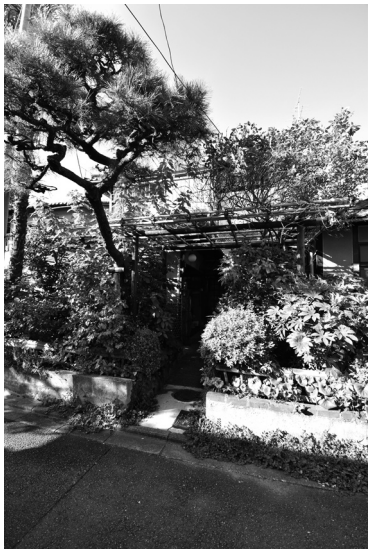
雑誌SPINNUTS ―糸紡ぎに夢中―

原毛屋スピナッツは羊毛と雑誌スピナッツで、
羊の恵み―羊毛、乳、肉から始まる
楽しい暮らしを提案しています。

文/スピナッツ出版　本出ますみ

■スピナッツ104号　￥1300＋税
Ｂ５サイズ56ページ　2019年9月発行
特集「日本と英国の毛織物　ホームスパン、タータン、ツイード」

■はじめての糸紡ぎ　2019年改定
￥800+税　Ｂ５　60ページ
フリースから羊毛洗い、染色、カーディング、そしてスピニングまで、これ一冊でＯＫ！（別売ＤＶＤあり）



スピナッツ玄関

スピナッツとは「SPIN（紡ぎ）+NUTS（夢中）」という言葉を合わせて作った名前です。羊からの恵みを無駄なく味わい尽くそうという雑誌です。1984年に始まってかれこれ37年になりますが、途中で興味の種が尽きることはありませんでした。

羊は、家畜化されて1万年になります。羊から採れる羊毛と肉、乳、糞の利用は衣食住にわたっています。だから羊がいれば人は生きていけるのです。羊を学ぶことはすなわち持続可能な暮らし方を学ぶことにつながります。今の時代こそ見直すべき知恵にあふれていると言えるのです。

さて私の羊をめぐる旅は1983年に始まりました。インドへ行く前にオーストラリアに立ち寄ったのですが、友人の奥様が、毛刈りしたての羊一頭分の羊毛＝Fleece（フリース）を糸車の横にボンと置き、その毛から糸を紡いでいるのを見て、とても驚きました。この時「糸ってこんなふうにして作るのか！」と初めて知り、衝撃を受けました。

「フリース」とは今ある化繊のフリースのジャケットのことではなく、本来は羊一頭分の刈りたての羊毛を指します。一枚のコートのように繋がっていて、羊の形に広げることができます。初めて見た光り輝くフリースのなんと美しかったこと。その日“原毛屋になる”と決心し、3頭分のフリースを持ち帰って、原毛屋Spin house PONTA・スピンハウスポンタを始めました。1984年のことです。

糸を紡ぐことは、春の羊の毛刈りから始まって、羊毛を洗い、染め、梳き、紡ぎ、織ったり編んだりして、ようやく一枚の衣になるには長い時間がかかります。初めて自分で紡いだ糸で作ったセーターを着た時、今まで経験したこともない満足感で心が満たされたことを、昨日のように覚えています。「この一枚さえあれば、私は大丈夫」と思えたのです。

1985年創刊「情報誌スピナッツ」

「きっと糸紡ぎなんて、日本では誰もやっていないだろう」と、鼻息あらく帰ってきましたが、知らなかったのは私だけで、いざ始めてみると日本にも、手紡ぎや手織りをしている人たちがたくさんいました。その出会う人、知らないことにその度驚いたり、考えたり、感激したことを誰かに伝えたくて、翌1985年から「情報誌スピナッ

ツ」を作り始めました。手書き、8ページ、コピー刷りの30部が創刊号です。

スピナッツを始めた頃の「羊から始まる、たくさんの楽しいことを、SPIN・NUTS（紡ぎに夢中）という熱いハートで、多くの人と分かち合いたい」という気持ちは、30年以上たった2019年の今も変わっていません。

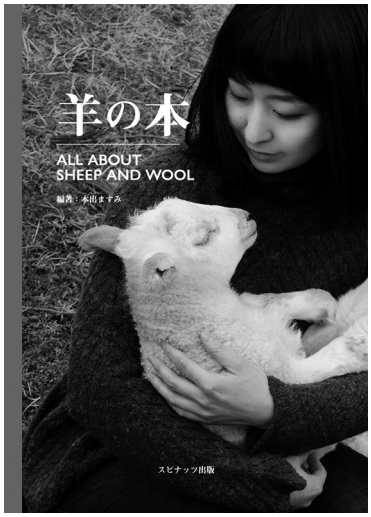
21世紀の現代、世界はインターネットで繋がり、食べるものも着るものも、自分の手で作らなくてもお金さえあれば手に入れることができるようになりました。もちろんセーターはお金を出せばすぐに手に入ります。でもそれは、どこかで誰かが羊の毛を毛刈りして、羊毛を糸に紡いで編んで作られたものです。

私が羊から学んだのは、「丸ごと無駄にしない」ということです。雑誌スピナッツは、編み織りフェルト等の「物作りの原点」に触れ、その作り方を解読するところから始まります。そして原毛屋スピナッツでは、英国、オーストラリア、ニュージーランド、そして日本各地の牧場からやってきた、毛刈りしたての羊の毛（フリース）を、一頭づつ仕分けして販売しています。

こんなスピナッツは、京都の北野天満宮近くの古い町屋にあります。そして年に２～３回、新・東京スピニングパーティーやクラフトフェアーまつもとなど、各地に出店もします。ぜひ一度、一頭分の羊の毛に触れ、糸を紡いでみませんか？　スピナッツが楽しい羊の世界をご案内いたします。

＊

（羊の原毛屋スピナッツ、スピナッツ出版代表　本出ますみ）



■羊の本　ALL ABOUT SHEEP AND WOOL
￥4500＋税　Ｂ５サイズ　336ページ
2018年刊行
羊の恵み、ウールの扱い方、紡ぎ、フェルト、紡績、リサイクル、羊の歴史、世界観、そして日本の羊飼いまで、羊と羊毛の全てを楽しめる一冊です。

「フリース」とは今ある化繊のフリースのジャケットのことではなく、本来は羊一頭分の刈りたての羊毛を指します。

フリース

オーストラリアのコリデール羊

糸車とフリース

国産羊毛コンテスト

毛刈りした羊1頭分のフリース

風水土（大阪大丸）出店の様子

■関連コラム　モンゴルの遊牧民の暮らし ―◇◆◇

モンゴル遊牧民のゲル（フェルトの家）の中には、一家族に必要な衣食住の全てが備わっています。ベッド、タンス、冷蔵庫、食器、料理をするストーブなど。燃料は家畜の糞を干して使い電気は太陽光のソーラーパネルで作ります。パラボラアンテナでテレビも見られ、携帯電話は必需品。水は井戸に汲みに行きます。移動手段は馬も車も使うのだそう。子ども達はオートバイが大好き。馬と同じ感覚なのでしょう。コンパクトなゲルの中に、一つの家族が自立して暮らしていけるノウハウが全部詰まっています。羊と共にある遊牧民の暮らし方は、まさに21世紀の持続可能な暮らしのお手本だと思うのです。

モンゴル遊牧民のゲル

モンゴルの羊

モンゴル　ゲルの暮らし

新刊ダイジェスト

表示されている値段は本体価格となっております。ご購入には別途、消費税がかかります。

『よるなんて・・・・・・』●デビ・グリオリ著／若林千鶴訳

夜に霧みたいにやって来たもやもやした気持ち。いつから始まったのかわからない。朝になってもこわくてたまらない。夜になるとあたしが削られていくのがわかる。いくら話してもうまく伝わらないから絵に描いてみる。それはドラゴンのようなもの。鋭い嘴で突かれたり、火を吹きかけられたりと散々だけれど、あたしはある日、やっとの思いで駆け出した。なんとか海辺の崖をよじ登ったら、黒と白の縞模様の羽根を見つけて……。

自身、うつ病に苦しんだ著者が木炭画で伝える世界。女の子の不安がシンプルな言葉で語られ、羽根を手にして希望の光が射す。訳者のあとがきでは表紙に記されている原題の一部“NIGHT”のI（あたし）は羽根がデザインされ、夜に閉じ込められていることが明かされる。見返し部分にも銀色を背景に美しい羽根が描かれている。“よるなんてこわくない”と呟いてきた女の子が踏み出した一歩。病気への理解を深められ、勇気を持てる絵本。

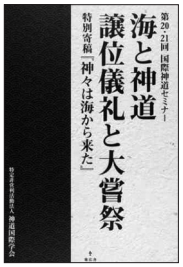
◆1200円・152mm × 186mm判・34頁・**リーブル**・東京・201908刊・ISBN9784947581952

『新生児マス・スクリーニングの歴史』●笹谷絵里著

新生児マス・スクーリングは赤ちゃんの先天性疾患の早期発見・治療を目的とした医療制度で、わが国は1977年に導入し、殆どの新生児が受けている。しかし、疾患児を持つ親が次の妊娠時に疾患の遺伝子情報保因者として、出生予防や出生前診断の対象者となっている実態はどれほどの人が認識しているだろうか。いわばこの影の部分を含む制度の全容を、導入を担った小児科医らの考え、治療医薬品としての特殊ミルクの開発、親に対する出生前及びＤＮＡ診断、大阪府の女性団体による優生思想批判の抗議運動、2014年に新たに導入されたタンデムス法の開発経緯など、医学史、医療史、優生学史の視点から、膨大な文献と実証データを駆使して検証する。専門的な内容であるが多くの注釈に助けられる。何より著者が研究中に出産をするという実体験が問題を身近なものにしてくれている。最後の、あるがままの遺伝情報を受けいれることも必要ではないかとの言葉は印象的である。

◆2600円・四六判・364頁・**洛北出版**・京都・201909刊・ISBN9784903127286

『海と神道／譲位儀礼と大嘗祭』●三宅善信編



神道国際学会による二つの国際神道セミナーを書籍化したもの。前半の『海と神道』において、欧米における神道研究の第一人者であるマーク・テーウェン氏は、かつて皇學館大学神道学科で二年間学習した中で、海という言葉は一度も出てこなかった、と言う。「稲、山、木、石などいろいろ出てくるのですが、海は一度もない」。この問題意識が、本セミナーの全体を貫くテーマになっており、宮城学院女子大学の大内典氏による基調講演「龍神と音楽：エビス信仰との関連から」とそれに続くパネルディスカッションで、「神道における海」に関する知的刺激に満ちた内容が展開されている。一方『譲位儀礼と大嘗祭』では、皇學館大学の佐野真人氏「大嘗祭における太上天皇」が主に大嘗祭の形式面を理解するのを助けてくれる。また神道国際学会会長マイケル・パイ氏「現在の即位と大嘗祭の宗教要素について」ではパブリックな即位の礼と、皇室のプライベートな儀式としての大嘗祭、という区別について教えてくれる。

◆1000円・210mm × 140mm・139頁・**集広舎**・福岡・201909刊・ISBN9784904213810

『俳句の射程　秀句遍歴』●原　雅子著

俳句の見方、読み方の幅を大きく広げてくれる俳句エッセイ。月々の結社誌や句集の作品を取り上げた前半の〈現代俳句を読む〉を開いてすぐに〈「進化」いま汚染水垂れあたたかし〉（関悦史）という衝撃的な句が目に飛び込んでくる。この作品は、春の季語であるはずの「あたたかし」を逆手にとってその裏に立ち込める不穏な気配へと転じている、と著者は言う。また、これに関連して、東日本大震災以降、俳人の間に、季語の変質を迫られたとの声が聞かれるようになった、とも。しかし、俳句という短詩型に時事を詠みこむことの困難さにも言及している。前書きや説明がないなかで、その句の背景をどこまで作者と共有できるかという、俳句鑑賞において度々読者が直面する問題であろう。一方で、例えば〈秋水に榊を浸けて誰もゐず〉（望月周）という句については、想像力を自由に広げて様々な文脈に自在に句を置き直して解釈してみせており、読者に俳句鑑賞の自由さも教えてくれている。

◆2700円・四六判・253頁・**深夜叢書社**・東京・201908刊・ISBN9784880324531

『ＪＲ芸備線・輸送密度１３　東城～備後落合』●山内正章著

岡山県の備中神代駅と広島駅を結ぶ芸備線は、備北地方の山の中を縫うように走ります。特に三次駅以東は列車本数が少ないローカル線となっています。その中でも備後落合駅と東城駅の間は一日三往復のみの超閑散路線となっています。本書はこの区間だけにスポットをあてた珍しい本です。納められた往年の写真からはかつての栄光が伺えます。しかし今や利用者は大幅に減少。中国山地のジャンクションとして栄えた備後落合駅は無人駅となり、ホームには列車が一両ポツンと停まります。そこからは過去の繁栄ぶりは想像できません。沿線には観光地もなく地元の人々の利用がほとんどで、それすらもお世辞にも多いとは言えませんが、今のところ廃線の声は聞こえてきません。各駅も地元の人たちの手で整備されており、芸備線への想いが伺えます。何の変哲もないローカル線にも、積み重ねた歴史や四季の移ろいなど、しみじみ味わえる魅力があることを実感させてくれます。

◆1800円・Ｂ５判・139頁・**菁文社**・広島・201908刊・ISBN9784902368246

売行良好書

期間：2019年9月15日～10月14日
※価格は本体価格表示です。別途消費税がかかります。

［出荷センター扱い］

(1)『たぷの里』1200円・ナナロク社　(2)『アーサー王のひひひひひまご』1500円・瑞雲舎　(3)『お砂糖とスパイスと爆発的な何か』1500円・書肆侃侃房　(4)『よみきかせのきほん』750円・東京子ども図書館　(5)『明智光秀ゆかりの地を歩く』1500円・サンライズ出版　(6)『不登校は1日3分の働きかけで９９％解決する』800円・リーブル出版　(7)『図書の修理とらの巻』1300円・澪標　(8)『造山古墳と作山古墳』1500円・吉備人出版　(9)『いのち輝く有明海を　分断・対立を超えて協働の未来選択へ』2000円・花乱社　(10)『広場』2000円・クオン　(11)『図説１７都県放射能測定マップ＋読み解き集』2315円・みんなのデータサイト出版　(12)『山陰の戦国史跡を歩く　島根編』1800円・ハーベスト出版

［三省堂書店神保町本店　センター扱い図書］

(1)『昭和プロレスマガジン　５０』909円・昭和プロレス研究室　(2)『東京かわら版　１０月号』556円・東京かわら版　(3)『本の雑誌　４３７号』667円・本の雑誌社　(4)『お砂糖とスパイスと爆発的な何か』1500円・書肆侃侃房　(5)『たやすみなさい』2000円・書肆侃侃房　(6)『高尾山登山詳細図全１１２コース』900円・吉備人出版　(7)『書評稼業四十年』1700円・本の雑誌社　(8)『大統領の密使／大統領の晩餐』1800円・フリースタイル　(9)『働くわたし』1500円・本の雑誌社　(10)『文庫本は何冊積んだら倒れるか』1600円・本の雑誌社

［ジュンク堂書店池袋店　地方出版社の本―センター扱い図書］

(1)『九州の島めぐり　５８の空と海』1800円・海鳥社　(2)『検証温暖化』2500円・不知火書房　(3)『高札ものがたり』909円・垂井日之出印刷所　(4)『お墓からの招待状』1200円・北海道出版企画センター　(5)『日本産鳥の卵と巣』2500円・まつやま書房　(6)『調査されるという迷惑』1000円・みずのわ出版　(7)『出雲王国とヤマト政権』2250円・大元出版　(8)『造山古墳と作山古墳』1500円・吉備人出版　(9)『江戸幕府代官頭　伊奈備前守忠次』2500円・埼玉新聞社　(10)『かまくら谷戸の風』1500円・冬花社　(11)『山陰の戦国史跡を歩く　島根編』1800円・ハーベスト出版　(12)『賢治学【第６輯】』1600円・杜陵高速印刷出版部

以下ホームページ等でも各種情報提供を行なっております。ご利用ください。
ＵＲＬ：http://neil.chips.jp/chihosho/　　ツイッター公式アカウント：@local_small

トピックス ―― ★★★

▼社会学専門ひとり出版社・ハーベスト社の小林達也さんが急逝されたと聞いた時はほんとうに驚きました。週に一度か二度、愛車のスバル・フォレスターを駆って納品に来ていただく姿が当たり前過ぎて、この先何年もこのお馴染みの光景が続くことを疑いもしませんでした。最近は医者に車の運転を止められているということで、ご家族が運転する車に同乗されてきたり、宅配業者を使っての納品に切り替わったりしていましたが。また、最近白髪ばかりになったな、という印象は否めませんでしたが。この場をかりて心より哀悼の意を表したく思います。かつて本アクセス誌にご寄稿いただいた文章をp10～p11再掲することで、追悼に代えたいと思います。なお既刊本につきましては、ご家族により販売が継続されると聞いています。あまりにも良書が多すぎて絞りこむことは難しいですが、以下だけは、紹介させていただきます。

＊

○『沈黙交易　異文化接触の原初的メカニズム序説』Ｐ・Ｊ・Ｈ・グリアスン著／本体2200円・200204刊・ISBN9784938551353

○『吉里吉里語辞典　復刻版　いとしく　おかしく　懐かしく』関谷徳夫著／本体4000円・201303刊・ISBN9784863390423

○『若者はなぜヤクザになったのか　暴力団加入要因の研究』廣末　登著／本体2800円・Ａ５判・201407刊・ISBN9784863390577

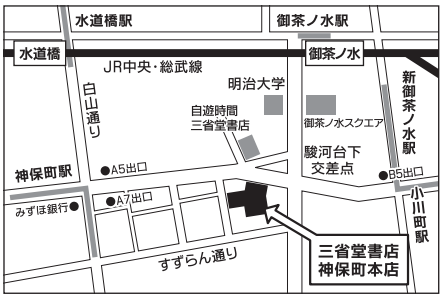
○『組長の娘　中川茂代の人生　更生した女性が語る自身のライフヒストリー』廣末　登著／本体1800円・四六判・198頁・201508刊・ISBN9784863390669

○『海が消えた　陸前高田と東日本大震災　宮沢賢治と大船渡線』佐藤竜一著／本体1600円・201512刊・ISBN9784863390690

○『ホッピー文化論』ホッピー文化研究会著／本体1200円・201608刊・ISBN9784863390799

地方・小出版物のデータになります。綴じて保存してください。

BOOKS SANSEIDO
三省堂書店
営業のごあんない

神保町本店 ４階
地方出版・小出版物フロア
営業時間　10：00 AM～8：00 PM
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1
TEL. 03-3233-3312(代)
URL. http://www.books-sanseido.co.jp

本店4階売場では、地方・小出版流通センター扱いの新刊全点のほか、地域別に書籍を取り揃えております。また、地域ならではのタウン誌、趣味の雑誌も扱っております。